

なないろのさかな

(上演時間 約15分)

〜考えるクラゲの話・その1〜

脇本ゆかり

●登場人物(11〜17名)

ゲルゲ (考えるクラゲ)

ゲルジャン (考えるクラゲ)

エビのじいさん (海をかき回すシーンがあるので、ひげが長いと面白いです)

ふらふらクラゲ (2〜5名/ふら〜んふら〜んと、揺れているシーンが多いです)

踊るクラゲ (2〜5名/踊っているシーンが多いです)

七色の魚 A・B (ダンボールなどで作った七色の魚を、二人で持って動きます)

サメ A・B

ナレーター

●あらすじ

深い海の底に、透明なクラゲたちが暮らしていました。ふら〜んふら〜ん、逆さになったり、くる〜りくる〜り、踊ったり。考えるクラゲ・ゲルゲは、やる気のないみんなの様子をエビのじいさんに「ぼします。もう一人の考えるクラゲ・ゲルジャンが、「いいじゃないか」と言った時、海がばふんと音を立て、七色の魚が流れてきました。七色の魚は、言いました。「あなたたちがうらやましい」そしてきつと追いかけて来る、怖いサメにおびえていました。ゲルゲは、みんなに訴えます。七色の魚を守ろうと。でも、みんなは……。

●作者より

このお話には、「考えることは素敵なこと」、そして、「みんなで力を合わせる」とは、もっと素敵なこと」というメッセージが織り交ぜてあります。クライマックスには、みんなで縦一列に並び、少しずつずれてぐるぐる回るダンスのシーンもあります。クラゲのかわいさが表現できるような衣装や振り付けを工夫して、楽しい舞台にしてください。

ふらふらクラゲ、踊るクラゲのセリフは、それぞれ3名(A・B・C)で演じるように分けられています。その他の人数で行う場合は、セリフを自由に分け直してください。

クラゲたちが、スズランテープの触手を垂らした子供用の透明傘を持ったりしても、楽しいかも知れません。(くれぐれも、危険のないように注意してください)

七色の魚は、クラゲたちみんなが横に並んで、やっと隠れるくらい長さの長さがベストです。

二人で持って歩きやすいよう、工夫してみてください。

エビのじいさんが隠れられる大きさの岩(大道具)を、舞台のどこかに置いてください。

劇中に出てくる音楽の『ピアノ譜』は『なないろのさかながやって来た』、『サメがやって来た』、『クラゲの歌〜なないろのさかな Ver.〜』、4曲セット)を、別売りにて販売中です。

♪ 音楽

『はじまりの曲』

―幕が開く―

ナレーター

深い深い海の底に、透明のクラゲたちが暮らしていました。
ふらーんふらーん、逆さになったり、くるーりくるーり、踊ったり。
これから始まるのは、そんなクラゲたちのお話です。

ゲルゲ

(クラゲたちに向かって) ねえ、みんな。ちゃんと食べてる？ ……ねえつたら！

エビ

おお。ゲルゲ。どうしたのじゃ？

ゲルゲ

エビのじいさん。みんなが、ちゃんとエサを食べてるかどうか、ぼく、心配で心配で……。

エビ

エサを食べずに死んでしまうクラゲが、たまにおるからう。

ゲルゲ

(うなずいて) うん。みんな、なーんにも考えていないんだ。

ゲルジャン

クラゲに、考えろだつて？ それは、無理だよ。

エビ

おお。ゲルジャン。

ゲルジャン

いいか。ものを考えるクラゲなんて、きみとぼくの他にはいないんだ。

ゲルゲ

そんなことはない。みんなだつて、きつと……。

ゲルジャン

何にも考えなくたって、いいじゃないか。みんな、こーんなに楽しそうなんだから。

♪ 音楽

『なないろのさかながやって来た』

ナレーター

おやおや。何か、やって来ましたよ。

ふらふらクラゲたち、踊るクラゲたち、自由に揺れている(並ばない)

『はじまりの曲』9小節目からナレーション開始
ナレーターの「逆さになったり」や「踊ったり」に合わせて、逆さポーズや踊りを入れられると面白い音楽が終わってから、ゲルゲが登場する

クラゲたち、聞こえない様子で、揺れたり踊ったりしている(七色の魚がやって来るまでずっと)
エビ、岩の後ろから出て来る

ゲルゲ、エビ、舞台前方で

ゲルジャン、踊りながら登場する

ゲルジャン、「こーんなに」のところで、クラゲたちに向かつて腕を広げる

七色の魚、登場する